

田能地区遺跡確認調査概要

— 農地還元利活用事業（樫田地区）の調査 —

大阪府教育委員会

平成12年3月31日

1. はじめに

今回の遺跡確認調査を実施した高槻市大字田能地区は、大阪府の北東部、北を亀岡市、東を京都市と接し、北摂山地内に存在する標高350m前後を測る山間盆地に立地している。

田能地区周辺には、東西約900m、南北約400mを測る狭い盆地ではあるが、高槻市教育委員会の遺跡分布調査で確認された田能北遺跡、田能南遺跡、田能地区の北西側に存在する山の頂きには、室町時代末期の武将である明智光秀の出城であったと言われている田能城跡が存在する。また、鎌倉時代前期に建立されたと伝えられる神宮寺、樫船神社が存在していることから、鎌倉時代前期には、集落が存在していたものと文献上からも推察される。

また、地形的にみると亀岡から高槻に至る街道の要所であったものと推定される。

今回の調査は、本府環境農林水産部の依頼により、農地還元利活用事業（樫田地区）に伴って実施したものである。調査の契機となった高槻市樫田地区内における府営圃場整備事業は、山間盆地で比較的傾斜のきつく狭小不整形で統一性のない耕地を整備し、農業経営の合理化ならびに水田利用再編対策事業を進めるために実施している。

調査は、大阪府教育委員会が、1999年8月から2000年2月にかけて実施した。

調査にあたっては、本府環境農林水産部耕地課、本府北部農と緑の総合事務所、高槻市教育委員会、地元自治会、樫田地区土地改良区などの諸機関より懇切な協力を得た。

2. 調査の概要

圃場整備対象地域全域に、遺跡の有無を確認するため基本的に2m×2m、深さ0.6mのトレンチを36箇所を設定し、遺構・遺物の発見に努めた。その結果、新規発見の遺跡1箇所、遺跡の範囲拡大3箇所を確認した。

(1) 田能北遺跡周辺地区

田能地区の北側に位置する。その範囲内に19箇所のトレンチを設定し、8箇所において遺構ないしは遺物を発見した。遺跡が存在する可能性が高い地域と判断したのは、ほぼ東西に走る田能川の支流である用水路によってほぼ2箇所に大別できる。出土した遺物は、基本的に瓦器、土師器、青磁などであるが、25トレンチからは、それら以外に鉾澤が出土していることから、この周辺で小鍛冶が行われていた可能性がある。これらから遺跡の時期は中世と推定される。



遺跡確認調査位置図

基本的に田能川の西側に設定したトレンチからは、遺構が発見されず、遺物も極少量であったことから、遺跡は存在しないものと判断した。また、従来の周知の遺跡の範囲内であった田能川の東側の旧河川と推定される地点に設定した32トレンチからは遺構、遺物とも発見されなかった。このことから遺跡の可能性は薄いものと推察される。

高槻市教育委員会と協議した結果、この周辺で発見された遺跡は、田能北遺跡の範囲拡大とした。

(2) 田能城跡周辺地区

田能地区の北西側の、南北に伸びる狭い谷の西斜面上に存在する。当初5トレンチのみ設定し、掘削し遺構遺物を検出した。その後範囲を確認するために6・8のトレンチを設定したが、遺構遺物は検出されなかった。圃場整備予定地内では長さ約70m、幅約20mの狭い範囲であるが、地形的には、遺跡の範囲は南の集落に続くものと推定される。

出土した遺物は、基本的に瓦器、土師器、青磁などである。遺跡の時期は、これらから中世と推定される。

高槻市教育委員会と協議した結果、この周辺で発見された遺跡は、時期は若干異なるが、西の山頂に存在する田能城跡の範囲拡大とした。

(3) 田能南遺跡周辺地区

田能地区の南側に位置する。位置は、基本的に田能川西岸と東岸に分けることができる。その範囲内に11箇所トレンチを設定し、その内4箇所から遺構・遺物が発見された。

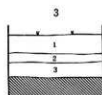
3トレンチ周辺は、圃場整備工事が盛土設計のため、削平を受ける周辺のみ掘削した。極少量の遺物が出土したが遺構が検出されなかったため遺跡外と判断した。

また、当初遺跡の範囲内であった27・28トレンチからは遺構・遺物が出土されなかったため遺跡の範囲から除外した。28・31トレンチからは、遺構は発見されなかったものの、中世の遺物が多量に出土している。

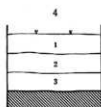
田能側東岸に設定したトレンチの内、23・24の2箇所から遺物が出土したことから遺跡である可能性が高いものと判断した。出土した遺物は、基本的に瓦器、土師器、青磁などである。遺跡の時期は、これらから中世と推定される。高槻市教育委員会と協議した結果、この周辺で発見された遺跡は、田能南遺跡の範囲拡大とした。

(4) 神宮寺西遺跡周辺地区

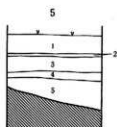
田能地区の最南端の田能川の東岸に位置する。3箇所のトレンチを設定した。そのうち34トレンチからは、遺構・遺物が多数検出された。35トレンチからは、遺構は検出されなかったが、遺物は多量に出土した。出土した遺物は、基本的に瓦器、土師器、青磁などである。遺跡の時期は、これらから中世と推定される。高槻市教育委員会と協議した結果、新規発見の遺跡で遺跡名は、西の山腹に鎌倉時代創建寺である神宮寺が存在していたことから、神宮寺西遺跡とした。



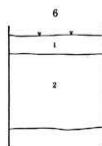
1. 砂土層
2. 灰色砂質土層
3. 灰色砂土層



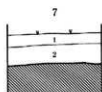
1. 砂土層
2. オリーブ灰色粘土層
3. 黄色粘土層



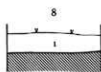
1. 砂土層
2. 灰土層
3. 暗褐色粘質砂土層
4. 褐色粘質砂土層
5. 灰色粘質砂土層



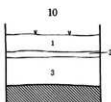
1. 砂土層
2. 粘土層



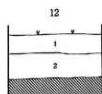
1. 砂土層
2. オリーブ灰色砂質土層



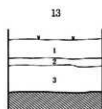
1. 砂土層



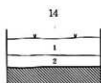
1. 砂土層
2. 灰土層
3. 褐色粘質粘土層



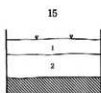
1. 砂土層
2. 粘土層



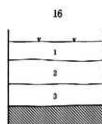
1. 砂土層
2. オリーブ褐色砂質粘土層
3. オリーブ褐色粘質土層



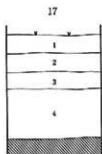
1. 砂土層
2. 緑灰色砂土層



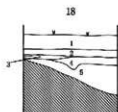
1. 砂土層
2. 灰色砂質粘土層



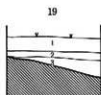
1. 砂土層
2. 灰質褐色粘土層
3. 灰色粘土層



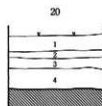
1. 砂土層
2. 黄灰色粘土層
3. 暗灰色粘土層 (灰色粘土含む)
4. 暗灰色粘土層



1. 砂土層
2. 黄褐色砂質土層
3. 灰土層
4. 灰色砂質土層



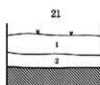
1. 砂土層
2. 灰土層
3. 褐色砂質土層



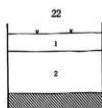
1. 砂土層
2. 褐色砂質土層
3. 灰土層
4. 褐色砂質土層

0 2m

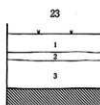
遺跡確認調査トレンチ土層断面図 1



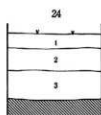
1. 粘土層
2. 灰褐色砂質土層



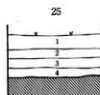
1. 粘土層
2. 粘土層



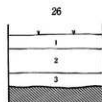
1. 粘土層
2. 黄褐色砂質土層
3. 褐色砂質土層



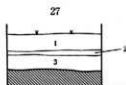
1. 粘土層
2. 黄褐色砂質土層
3. 灰褐色砂質土層



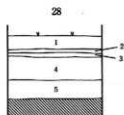
1. 粘土層
2. 灰褐色砂質土層
3. 灰褐色砂質土層
4. 褐色砂質土層



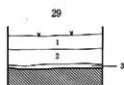
1. 粘土層
2. 粘土層
3. 灰色砂質土層



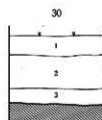
1. 粘土層
2. 黄褐色砂質土層
3. 黄褐色砂質土層



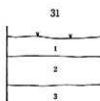
1. 粘土層
2. 黄褐色砂質土層
3. 灰褐色砂質土層
4. 褐色砂質土層
5. 灰褐色砂質土層



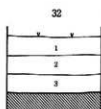
1. 粘土層
2. 灰褐色砂質土層
3. 黄褐色砂質土層



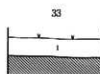
1. 粘土層
2. 褐色砂質土層
3. 灰色砂質土層



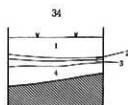
1. 粘土層
2. 灰色粘土層
3. 褐色砂質土層



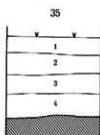
1. 粘土層
2. 褐色粘土層
3. 灰褐色粘土層



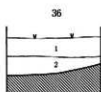
1. 粘土層



1. 粘土層
2. 黄褐色砂質土層
3. 灰褐色砂質土層
4. 褐色砂質土層



1. 粘土層
2. 灰褐色砂質土層
3. 褐色砂質土層
4. 灰褐色砂質土層



1. 粘土層
2. 灰褐色砂質土層



遺跡確認調査トレンチ土層断面図 2

1. 田能地区全景
南より

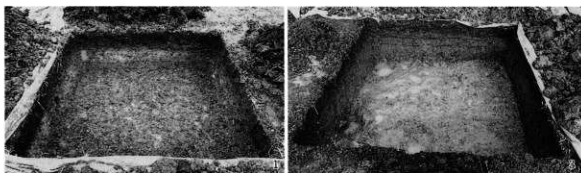


2. 5トレンチ
3. 5トレンチ断面
4. 10トレンチ
5. 10トレンチ断面

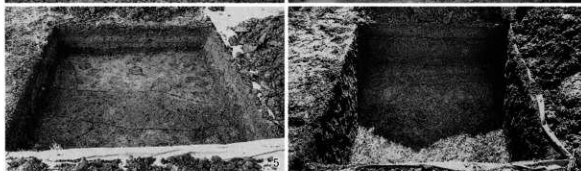
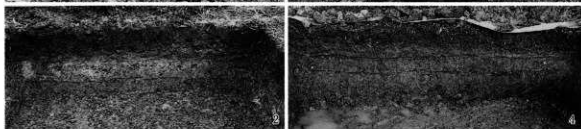


6. 16トレンチ
7. 16トレンチ断面
8. 19トレンチ
9. 19トレンチ断面

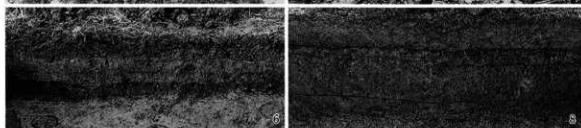




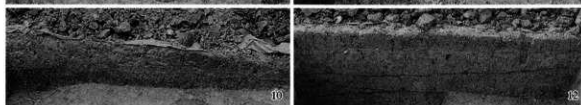
1. 20トレンチ
2. 20トレンチ断面
3. 23トレンチ
4. 23トレンチ断面



5. 25トレンチ
6. 25トレンチ断面
7. 28トレンチ
8. 28トレンチ断面



9. 34トレンチ
10. 34トレンチ断面
11. 35トレンチ
12. 35トレンチ断面



3. まとめ

今回の遺跡確認調査によって、従来からの周知の遺跡に加え、新規発見の遺跡1箇所、遺跡の範囲拡大3箇所が新に加わり、大きな成果を挙げることができた。分布状況から盆地内の約3分の1は、遺跡の範囲に含まれるものと推定される。また、分布状況から水田内だけではなく、現集落内にも遺跡の範囲がおよぶものと予測される。これらの遺跡の時期は、出土遺物から中世のものが最も多く、鎌倉時代初期を前後として、この盆地が開発されたことを物語っている。また、神宮寺、樫船神社などもその時代に創建されたと伝えられている。

これらのように、今回の調査によって、大きな成果を挙げることができた。今後、圃場整備工事に伴う発掘調査が進むにつれて、この盆地内の遺跡の状況が明らかになるであろう。

報告書抄録

ふりがな	たのうちいせきかくにんちようさがいよう								
書名	田能地区道路確認調査概要								
副書名									
シリーズ名									
シリーズ番号									
編著者名	奥 和之								
編集機関	大阪府教育委員会								
所在地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目 TEL 06-6941-0351								
発行年月日	2000. 3. 31								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
	市町村	遺跡番号							
じんぐうにしにいせき 神宮寺西遺跡	たかつまし 高槻市 おおあざのうらちない 大字田能地内	27207		35°	34°	1999年8月～ 2000年3月	144	府営農地 還元資源 利活用事 業（農田 地区）	
たのうみなみいせき 田能南遺跡			179	35°	57°				
たのうきたいせき 田能北遺跡			178	31°	23°				
たのうじょうもと 田能城跡			130						
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項		
神宮寺西遺跡	集落跡	鎌倉時代		柱穴		瓦器 土師器 青磁 白磁			
田能南遺跡									
田能北遺跡									
田能城跡									

田能地区遺跡確認調査概要
発行 大阪府教育委員会
〒 540-8571
大阪府大阪市中央区大手前2丁目
TEL 06-6941-0351
発行日 2000年3月
印刷 (株) 中島弘文堂印刷所